

青山学院大学系属

浦和ルーテル学院小中高等学校

2020 年度

# 学校評価報告書

2021 年 6 月 21 日

浦和ルーテル学院学校評価委員会

## 【目次】

1、2020年度青山学院大学系属浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び 評価委員会設置要綱	
Ⅰ、学校評価実施の趣旨	< 1 >
Ⅱ、評価委員会設置要綱	< 2、3 >
(1) 評価委員会の組織図	
(2) 各委員会の役割	
(3) 2020年度学校評価各委員会一覧	
Ⅲ、自己評価アンケート項目の設定基準	< 3 >
Ⅳ、2020年度自己評価アンケート調査項目	< 4 >
Ⅴ、自己評価アンケート調査結果の処理方法	< 5 >
2、自己評価アンケート集計結果	< 6～8 >
3、学校評価アンケートの結果考察	< 9～11 >
4、改善への対策	< 12 >

# 1、2020年度青山学院大学系属浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び 評価委員会

2021, 2, 18 学校評価委員会

## 1、学校評価実施の趣旨

2007年（平成19年）6月の学校教育法改正、同10月の学校教育法施行規則改正により自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられ、2008年4月より実施が義務付けられました。その目的について文部科学省では次の3点を挙げています。

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定しその状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより学校として組織的、継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

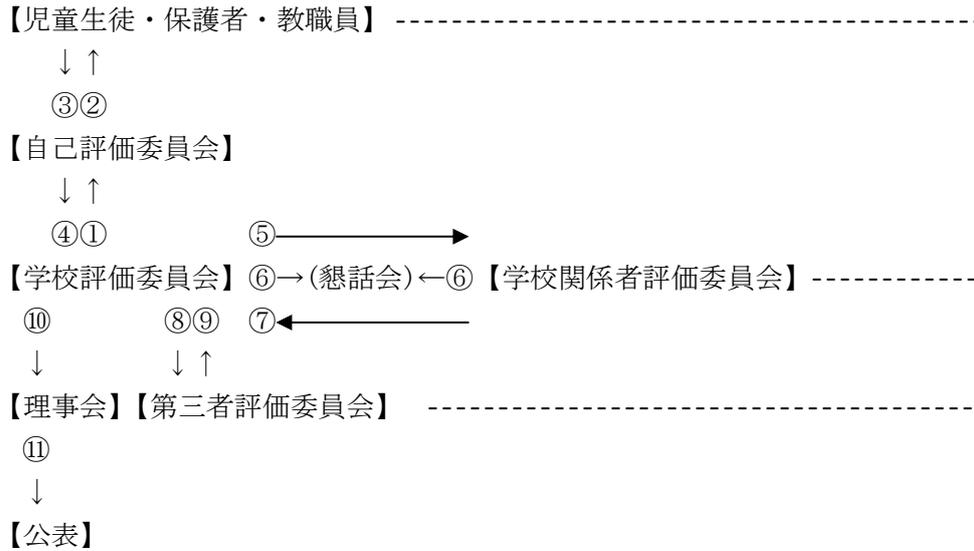
私立学校では上記3点を含め、あらゆる分野において改善・向上を目指し、組織的・継続的に努力を重ねています。私立学校の「建学の精神」とその実現を目指す日々の実践は常に厳しい評価にさらされています。すなわち存続そのものが評価であり、絶えざる改善・向上の取り組みなくして存続はありえません。学院では内外の評価委員の忌憚のない評価をもとに、学院の教育活動の長短の現状を検証し、より良い教育活動の実現に結びつけることが大切と考えます。

## ※ 学校評価のスケジュール

- |     |  |
|-----|--|
| 12月 | 児童生徒・保護者・教師学校評価アンケート調査   |
| 1月  | 集計   |
| 2月  | 学校評価委員会がアンケート調査結果を学校関係者評価委員会へ提出<br>第1回評価委員懇話会開催（PTA 四役のみ実施）<br>中間報告書作成 |
| 5月  | 学校評価委員会より理事会へ中間報告  |
| 6月  | 学校関係者評価委員による報告書作成及び学校評価委員会へ提出<br>公表                                    |

## 2、評価委員会設置要綱

### (1) 評価委員会の組織図



### (2) 各委員会の役割（文中の①～⑪は組織図の数字に対応する）

#### i 学校評価委員会

校長（委員長）、教頭（副委員長）、以下学校運営委員会のメンバー11名により構成され、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、第三者評価委員会及び懇話会の職務内容を決め次の職務を遂行する。

- ①④ 自己評価委員会へ評価資料の収集を依頼する。
- ⑤ 自己評価委員会の評価資料を基に報告書を作成し学校関係者評価委員会へ提出する。
- ⑥ その後懇話会を開催し学校関係者評価委員会へ資料を提供する。
- ⑦⑧ 学校関係者評価委員会の報告を受けて第三者評価委員会へ提出し評価を依頼する。
- ⑨⑩⑪ 第三者評価委員会の報告を受けて理事会へ報告し、公表する。

#### ii 自己評価委員会

学校評価委員で構成し、委員長を教頭、副委員長を各部長とする。各部の部長は副部長と共に小中高の連携をとり、その部を中心に次の職務を遂行する。校務分掌主任及び教科主任はこれを補佐する。

- ② 学校評価委員会の計画を受けてアンケート調査等を実施する。
- ③ 調査結果を集計し委員長へ提出する。事務長を中心に財務等の自己評価報告書を作成し委員長へ提出する。
- ④ 委員長は集計結果を受けて各部の自己評価報告書を作成、学校評価委員会へ提出。

#### iii 学校関係者評価委員会

PTA 四役より 1 名、評議員より 1 名、同窓会役員より 1 名で構成し、次の職務を遂行する。

- ⑤⑥⑦ 学校評価委員会よりの自己評価報告書を精査し、懇話会を経て学校関係者評価委員会報告書を取りまとめそれを学校評価委員会へ提出する。（必要に応じて授業参観、意見聴取、アンケート調査等を行なう）

#### iv 第三者評価委員会

第三者により構成し（1人でも可）、次の職務を遂行する。

- ⑧⑨ 学校評価委員会より最終報告を受け精査し、これを学校評価委員会へ提出する。

(3) 2020年度学校評価各委員会一覧

委員会	構成委員
i 学校評価委員会	福島宏政校長（委員長）、近藤秀明初等部教頭（副委員長） 増田諭中高等部教頭（副委員長）、栗原清一郎理事長、 後藤里志初等部長、高木敏光中高等部長、石井道子中高等副部長 長谷川久教務部長、今村基洋国際教育部報、斉藤義和事務局長 橋本しぐね企画部長
ii 自己評価委員会	近藤秀明初等部教頭（委員長）、増田諭中高等部教頭（委員長） 後藤里志初等部長（副委員長）、高木敏光中高等部長（副委員長） 栗原清一郎理事長、福島宏政校長、石井道子中高等副部長 長谷川久教務部長、今村基洋国際教育部長、斉藤義和事務局長 橋本しぐね企画部長
iii 学校関係者評価委員会	P T A役員6名

3、自己評価アンケート項目の設定基準

- (1) 「自己評価アンケートは網羅的で細かなチェックを行なうのではなく、重点化された目標を設定し精選して実施するものである」という文部科学省通達の趣旨に従いアンケート項目を設定した。
- (2) 「目指す学校像」、「学習」、「生活」、「行事」の4分野に対する意識調査を19の項目にわたって調査する。今年度は、昨年度に準じる設問とする。
- (3) 学院の建学の精神、教育ビジョン、目指すべき人間像は以下のようにになっている。
 

建学の精神	・神と人とを愛する人間、神と人々に愛される人間。
教育ビジョン	・神を愛し、神に愛される者として、周りの人に思いやりをもって行動し、自らも幸せに生きる人間を育てる。 ・神を愛し、神に愛される者として、自分の能力を発展させ、自分らしく成長する人間を育てる。
目指すべき人間像	・創造的な思考を身につけ、自分自身の考えを持ち、いかに学ぶべきかを学ぶ人間。 ・アクティブで良識ある国際人として、ますます AI が普及し国際化が進む中であって、隣人と共に平和な時代を創り、共に生きる人間。

#### 4、2020年度自己評価アンケート調査項目

##### ◎児童生徒用（5～12年）・保護者用（1～12年）

- 1、現在の（お子様）の学年
- 2、現在の（お子様）のクラス
- 3、Ⅰ〔A〕 建学の精神、教育ビジョン、ギフト教育等、学院の根幹を成す指導全般
- 4、Ⅰ〔B〕 学院の学習指導への取り組み
- 5、Ⅰ〔C〕 学院の人格教育への取り組み
- 6、Ⅰ〔D〕 学院の行事全般への取り組み
- 7、Ⅱ 意見等を聞き取る機会の提供
- 8、Ⅲ 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開
- 9、Ⅳ 学院の防犯、防災、安全管理への対策
- 10、Ⅴ 学院の特徴について、12年一貫教育のメリットが生かされた活動
- 11、Ⅵ〔A〕 内容が分かりやすく、学習習慣がしっかり身に付く授業
- 12、Ⅵ〔B〕 教材やテキストなどが工夫され、学力向上への環境整備
- 13、Ⅶ〔A〕 教師の親身になった教育相談
- 14、Ⅶ〔B〕 基本的生活習慣が身に付く生活指導
- 15、Ⅷ 親戚、友人、知人等に学院への入学の勧誘
- 16、Ⅸ 学院に対するご意見、ご要望等ございましたら、ご記入ください

##### ◎教員用（初等部、中等部、高等部）

- 1、現在、授業を行っている教科
- 2、現在、授業を行っている学年
- 3、Ⅰ〔A〕 学院の建学の精神、教育ビジョン、ギフト教育等、学院の根幹を成す指導全般
- 4、Ⅰ〔B〕 学院の学習指導への取り組み
- 5、Ⅰ〔C〕 学院の人格教育への取り組み
- 6、Ⅰ〔D〕 学院の行事全般への取り組み
- 7、Ⅱ 学院が児童生徒の意見等を聞き取る機会を作っている
- 8、Ⅲ 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開
- 9、Ⅳ 学院の防犯、防災、安全管理への対策
- 10、Ⅴ 自分の12年一貫教育のメリットを生かす取り組み
- 11、Ⅵ〔A〕 （自分の授業について）内容が分かりやすく、学習習慣がしっかり身に付く授業
- 12、Ⅵ〔B〕 （自分の授業について）教材やテキストなどが工夫され、学力向上への環境整備
- 13、Ⅶ〔A〕 学院の親身になった教育相談
- 14、Ⅶ〔B〕 学院の基本的生活習慣が身に付く生活指導
- 15、Ⅷ 親戚、友人、知人等に学院への入学の勧誘
- 16、Ⅸ 学院に対するご意見、ご要望等ございましたら、ご記入ください

※全ての設問は、以下の4択で回答

- ・よくできている      ・できている      ・あまりできていない      ・できていない

## 5、自己評価アンケート調査結果の処理方法

※Ⅰ～Ⅷについて、よくできている～できていないをポイント化して満足度を数値化している。

- (1) よくできている…3点                      (2) できている…2点  
(3) あまりできていない…1点                (4) できていない…0点

<回答総数12名の場合>

例1 (1) 12人 (2) 0人 (3) 0人 (4) 0人  
 $(3点 \times 12人) + (2点 \times 0人) + (1点 \times 0人) + (0点 \times 0人) = 36点$   
 $36 \div (3点 \times 12人) \times 100 = 100ポイント$

例2 (1) 6人 (2) 6人 (3) 0人 (4) 0人  
 $(3点 \times 6人) + (2点 \times 6人) + (1点 \times 0人) + (0点 \times 0人) = 30点$   
 $30 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 83ポイント$

例3 (1) 3人 (2) 3人 (3) 3人 (4) 3人  
 $(3点 \times 3人) + (2点 \times 3人) + (1点 \times 3人) + (0点 \times 3人) = 18点$   
 $18 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 50ポイント$

例4 (1) 0人 (2) 0人 (3) 6人 (4) 6人  
 $(3点 \times 0人) + (2点 \times 0人) + (1点 \times 6人) + (0点 \times 6人) = 6点$   
 $6 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 17ポイント$

全員が大いに満足していれば満点で100ポイントとなり、各項目が均衡していれば満足度50ポイント、全員が大いに不満なら0ポイントとなる。  
一般に満足度60ポイント以上で正常とされている。

## 2、学校評価アンケート集計結果

### 2020年度アンケート集計結果（保護者まとめ）

初等部保護者		(回答者 234 名)								
質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	143	61.1%	83	35.5%	7	3.0%	1	0.4%	85.8
I B	学習指導	132	56.4%	83	35.5%	17	7.3%	2	0.9%	82.5
I C	人格教育	133	56.8%	85	36.3%	13	5.6%	3	1.3%	82.9
I D	行事	106	45.3%	114	48.7%	11	4.7%	3	1.3%	79.3
II	意見聴取	97	41.5%	104	44.4%	29	12.4%	4	1.7%	75.2
III	情報公開	94	40.2%	112	47.9%	24	10.3%	4	1.7%	75.5
IV	安全対策	130	55.6%	94	40.2%	9	3.8%	1	0.4%	83.6
V	12年一貫メリット	119	50.9%	100	42.7%	15	6.4%	0	0.0%	81.5
VI (A)	授業が分かりやすい	121	51.7%	103	44.0%	10	4.3%	0	0.0%	82.5
VI (B)	教材やテキストの工夫	102	43.6%	117	50.0%	15	6.4%	0	0.0%	79.1
VII (A)	相談にのってくれる	159	67.9%	71	30.3%	4	1.7%	0	0.0%	88.7
VII (B)	生活指導	121	51.7%	108	46.2%	5	2.1%	0	0.0%	83.2
VIII	入学を勧めるか	115	49.1%	98	41.9%	16	6.8%	5	2.1%	79.3

中等部保護者		(回答者 119 名)								
質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	44	37.0%	69	58.0%	6	5.0%	0	0.0%	77.3
I B	学習指導	27	22.7%	72	60.5%	16	13.4%	4	3.4%	67.5
I C	人格教育	41	34.5%	63	52.9%	13	10.9%	2	1.7%	73.4
I D	行事	31	26.1%	77	64.7%	9	7.6%	2	1.7%	71.7
II	意見聴取	33	27.7%	54	45.4%	27	22.7%	5	4.2%	65.5
III	情報公開	32	26.9%	73	61.3%	10	8.4%	4	3.4%	70.6
IV	安全対策	59	49.6%	52	43.7%	8	6.7%	0	0.0%	81.0
V	12年一貫メリット	35	29.4%	63	52.9%	19	16.0%	2	1.7%	70.0
VI (A)	授業が分かりやすい	22	18.5%	82	68.9%	12	10.1%	3	2.5%	67.8
VI (B)	教材やテキストの工夫	26	21.8%	78	65.5%	12	10.1%	3	2.5%	68.9
VII (A)	相談にのってくれる	48	40.3%	64	53.8%	7	5.9%	0	0.0%	78.2
VII (B)	生活指導	32	26.9%	83	69.7%	2	1.7%	2	1.7%	73.9
VIII	入学を勧めるか	34	28.6%	69	58.0%	13	10.9%	3	2.5%	70.9

高等部保護者		(回答者 90 名)								
質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	38	42.2%	45	50.0%	7	7.8%	0	0.0%	78.1
I B	学習指導	25	27.8%	48	53.3%	15	16.7%	2	2.2%	68.9
I C	人格教育	37	41.1%	46	51.1%	7	7.8%	0	0.0%	77.8
I D	行事	26	28.9%	55	61.1%	9	10.0%	0	0.0%	73.0
II	意見聴取	23	25.6%	45	50.0%	17	18.9%	5	5.6%	65.2
III	情報公開	22	24.4%	49	54.4%	16	17.8%	3	3.3%	66.7
IV	安全対策	41	45.6%	47	52.2%	1	1.1%	1	1.1%	80.7
V	12年一貫メリット	17	18.9%	53	58.9%	19	21.1%	1	1.1%	65.2
VI (A)	授業がわかりやすい	15	16.7%	63	70.0%	12	13.3%	0	0.0%	67.8
VI (B)	教材やテキストの工夫	18	20.0%	55	61.1%	17	18.9%	0	0.0%	67.0
VII (A)	相談にのってくれる	39	43.3%	42	46.7%	8	8.9%	1	1.1%	77.4
VII (B)	生活指導	22	24.4%	59	65.6%	9	10.0%	0	0.0%	71.5
VIII	入学を勧めるか	19	21.1%	55	61.1%	15	16.7%	1	1.1%	67.4

## 2020年度アンケート集計結果（児童生徒まとめ）

初等部 (回答者 94 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	34	36.2%	46	48.9%	12	12.8%	2	2.1%	73.0
I B	学習指導	29	30.9%	40	42.6%	21	22.3%	4	4.3%	66.7
I C	人格教育	27	28.7%	42	44.7%	14	14.9%	11	11.7%	63.5
I D	行事	48	51.1%	26	27.7%	13	13.8%	7	7.4%	74.1
II	意見聴取	18	19.1%	28	29.8%	37	39.4%	11	11.7%	52.1
III	情報公開	24	25.5%	36	38.3%	31	33.0%	3	3.2%	62.1
IV	安全対策	54	57.4%	31	33.0%	6	6.4%	3	3.2%	81.6
V	12年一貫メリット	39	41.5%	40	42.6%	11	11.7%	4	4.3%	73.8
VI (A)	授業が分かりやすい	34	36.2%	37	39.4%	20	21.3%	3	3.2%	69.5
VI (B)	教材やテキストの工夫	42	44.7%	40	42.6%	10	10.6%	2	2.1%	76.6
VII (A)	相談にのってくれる	33	35.1%	33	35.1%	23	24.5%	5	5.3%	66.7
VII (B)	生活指導	45	47.9%	38	40.4%	9	9.6%	2	2.1%	78.0
VIII	入学を勧めるか	35	37.2%	31	33.0%	16	17.0%	12	12.8%	64.9

中等部 (回答者 268 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	74	27.6%	149	55.6%	32	11.9%	13	4.9%	68.7
I B	学習指導	81	30.2%	143	53.4%	33	12.3%	11	4.1%	69.9
I C	人格教育	74	27.6%	114	42.5%	53	19.8%	27	10.1%	62.6
I D	行事	79	29.5%	125	46.6%	48	17.9%	16	6.0%	66.5
II	意見聴取	60	22.4%	89	33.2%	89	33.2%	30	11.2%	55.6
III	情報公開	75	28.0%	110	41.0%	67	25.0%	16	6.0%	63.7
IV	安全対策	123	45.9%	116	43.3%	18	6.7%	11	4.1%	77.0
V	12年一貫メリット	80	29.9%	115	42.9%	52	19.4%	21	7.8%	64.9
VI (A)	授業が分かりやすい	70	26.1%	135	50.4%	43	16.0%	20	7.5%	65.0
VI (B)	教材やテキストの工夫	76	28.4%	131	48.9%	46	17.2%	15	5.6%	66.7
VII (A)	相談にのってくれる	98	36.6%	101	37.7%	44	16.4%	25	9.3%	67.2
VII (B)	生活指導	80	29.9%	124	46.3%	47	17.5%	17	6.3%	66.5
VIII	入学を勧めるか	48	17.9%	113	42.2%	49	18.3%	58	21.6%	52.1

高等部 (回答者 212 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	68	32.1%	117	55.2%	21	9.9%	6	2.8%	72.2
I B	学習指導	53	25.0%	129	60.8%	24	11.3%	6	2.8%	69.3
I C	人格教育	61	28.8%	108	50.9%	34	16.0%	9	4.2%	68.1
I D	行事	35	16.5%	110	51.9%	47	22.2%	20	9.4%	58.5
II	意見聴取	59	27.8%	99	46.7%	35	16.5%	19	9.0%	64.5
III	情報公開	43	20.3%	116	54.7%	42	19.8%	11	5.2%	63.4
IV	安全対策	83	39.2%	118	55.7%	8	3.8%	3	1.4%	77.5
V	12年一貫メリット	54	25.5%	103	48.6%	38	17.9%	17	8.0%	63.8
VI (A)	学習習慣が身に付く授業が行われている	39	18.4%	132	62.3%	30	14.2%	11	5.2%	64.6
VI (B)	学力向上の環境が整っている	42	19.8%	135	63.7%	28	13.2%	7	3.3%	66.7
VII (A)	相談にのってくれる	106	50.0%	92	43.4%	11	5.2%	3	1.4%	80.7
VII (B)	生活指導	70	33.0%	103	48.6%	33	15.6%	6	2.8%	70.6
VIII	入学を勧めるか	37	17.5%	98	46.2%	50	23.6%	27	12.7%	56.1

## 2020年度アンケート集計結果（教職員まとめ）

初等部教師 (回答者 33 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	5	15.2%	25	75.8%	3	9.1%	0	0.0%	68.7
I B	学習指導	3	9.1%	22	66.7%	8	24.2%	0	0.0%	61.6
I C	人格教育	4	12.1%	25	75.8%	4	12.1%	0	0.0%	66.7
I D	行事	3	9.1%	25	75.8%	4	12.1%	1	3.0%	63.6
II	意見聴取	7	21.2%	19	57.6%	5	15.2%	2	6.1%	64.6
III	情報公開	4	12.1%	22	66.7%	3	9.1%	4	12.1%	59.6
IV	安全対策	9	27.3%	20	60.6%	4	12.1%	0	0.0%	71.7
V	12年一貫メリット	3	9.1%	15	45.5%	14	42.4%	1	3.0%	53.5
VI (A)	授業が分かりやすい	2	6.1%	27	81.8%	4	12.1%	0	0.0%	64.6
VI (B)	教材やテキストの工夫	0	0.0%	27	81.8%	6	18.2%	0	0.0%	60.6
VII (A)	相談にのってくれる	10	30.3%	21	63.6%	2	6.1%	0	0.0%	74.7
VII (B)	生活指導	3	9.1%	19	57.6%	10	30.3%	1	3.0%	57.6
VIII	入学を勧めるか	2	6.1%	18	54.5%	11	33.3%	2	6.1%	53.5

中等部教師 (回答者 18 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	4	22.2%	9	50.0%	5	27.8%	0	0.0%	64.8
I B	学習指導	3	16.7%	9	50.0%	6	33.3%	0	0.0%	61.1
I C	人格教育	3	16.7%	13	72.2%	1	5.6%	1	5.6%	66.7
I D	行事	2	11.1%	11	61.1%	3	16.7%	2	11.1%	57.4
II	意見聴取	7	38.9%	5	27.8%	5	27.8%	1	5.6%	66.7
III	情報公開	3	16.7%	12	66.7%	2	11.1%	1	5.6%	64.8
IV	安全対策	4	22.2%	13	72.2%	1	5.6%	0	0.0%	72.2
V	12年一貫メリット	4	22.2%	5	27.8%	8	44.4%	1	5.6%	55.6
VI (A)	授業が分かりやすい	3	16.7%	13	72.2%	2	11.1%	0	0.0%	68.5
VI (B)	教材やテキストの工夫	1	5.6%	12	66.7%	5	27.8%	0	0.0%	59.3
VII (A)	相談にのってくれる	7	38.9%	10	55.6%	1	5.6%	0	0.0%	77.8
VII (B)	生活指導	2	11.1%	13	72.2%	3	16.7%	0	0.0%	64.8
VIII	入学を勧めるか	5	27.8%	5	27.8%	6	33.3%	2	11.1%	57.4

高等部教師 (回答者 22 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	2	9.1%	14	63.6%	6	27.3%	0	0.0%	60.6
I B	学習指導	2	9.1%	13	59.1%	7	31.8%	0	0.0%	59.1
I C	人格教育	2	9.1%	16	72.7%	3	13.6%	1	4.5%	62.1
I D	行事	2	9.1%	10	45.5%	8	36.4%	2	9.1%	51.5
II	意見聴取	4	18.2%	12	54.5%	5	22.7%	1	4.5%	62.1
III	情報公開	4	18.2%	12	54.5%	5	22.7%	1	4.5%	62.1
IV	安全対策	6	27.3%	16	72.7%	0	0.0%	0	0.0%	75.8
V	12年一貫メリット	2	9.1%	11	50.0%	8	36.4%	1	4.5%	54.5
VI (A)	学習習慣が身に付く授業が行われている	2	9.1%	17	77.3%	3	13.6%	0	0.0%	65.2
VI (B)	学力向上の環境が整っている	0	0.0%	18	81.8%	4	18.2%	0	0.0%	60.6
VII (A)	相談にのってくれる	3	13.6%	17	77.3%	2	9.1%	0	0.0%	68.2
VII (B)	生活指導	1	4.5%	17	77.3%	4	18.2%	0	0.0%	62.1
VIII	入学を勧めるか	2	9.1%	9	40.9%	8	36.4%	3	13.6%	48.5

### 3、学校評価アンケートの結果考察 ※文中の数値は適宜四捨五入して表記しています。

2019年度の学校評価アンケートは、コロナ感染症拡大防止対策による学校閉鎖に伴って2020年6月実施となった。コロナ禍での休校対応と並行して学院として初めてWebアンケート形式を取り入れたことや2020年度開始から2か月後に2019年度の学校評価を依頼したこともあり、例年に比べるとアンケート回答数が少なく、データとしての信憑性に欠けてしまった。2020年度の学校評価は、半年後の2020年12月実施となった。Webアンケート形式での実施に関する反省を踏まえつつ、アンケート実施の周知と協力依頼を行い、前回に比べて多くのデータを回収することができたことから、より信憑性のある回答が得られたと考えられる。

#### (1) I、〔A〕～〔D〕(建学の精神、人格教育、学習指導、学校行事)

満足ポイントの平均は児童生徒68(昨年72)、保護者77(昨年75)、教員62(昨年67)と、全ての満足ポイントが60以上となり、問題のないレベルであった。特に保護者は77という高いポイントを獲得しており、アンケート回答者数が増加した上でポイントが高くなっていた。コロナ禍にあっても学院の骨格となる指導体制全般に良好な評価を受けており、満足度が高い状態と言える。満足度の序列は、概ね保護者>児童生徒>教師(人格教育の評価のみ保護者>教師>児童生徒)となっており、教師の自己評価が厳しいことが伺える。

初→中→高という保護者評価の推移をみると(83→73→74)という結果になり、中高の評価に大きな差は見られなかった。それに対して、児童生徒は(69→67→60)、教員は(65→63→58)となっていることが伺える。満足ポイントとしては高い値ではあるものの、対象年齢が上がるにつれて評価が厳しくなっていることが分かる。高等部教員では、「行事」項目が58となっていた。コロナ禍にあって、高等部生徒の行事への取り組みを充実したものにできなかったという想いが反映されていると思われる。

#### (2) II、(意見聴取) III、(情報公開)

IIにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒57(67)、保護者69(66)、教員65(65)という結果であった。また、60を下回っている児童生徒の満足度を初→中→高の推移でみると(52→56→65)という結果であった。初等部や中等部では自分の意見を聞く機会を作ってもらえているという満足度が平均よりも低く、高等部では意見を聞く機会を作ってもらえているという意識が高いこととなる。発達段階に応じて、自主性を重んじた指導を児童生徒への丁寧な対応を心がけ、教員に受け止められているという自覚を得られるような指導を続けていく必要があると思われる。

IIIにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒63(50)、保護者71(56)、教員62(59)という結果だった。( )内の昨年度のポイントと比較すると情報公開に対する満足ポイントがどのカテゴリも高くなっている。コロナ禍にあって、学院発信の情報(安全対策を含めた学習や学校行事等)を手紙やメール、HPやGoogle classroomなどの媒体を駆使して意欲的に発信した結果、児童生徒・保護者・教員が満足できる情報共有が出来ていたと伺える。また、IIやIIIの項目について、過去のデータでは50点台のポイントが多かったことを踏まえるとの確かかつ効果的な情報共有がなされてきたと思われる。

### (3) IV、(安全対策)

IVにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒 79 (78)、保護者 82 (80)、教員 (77) という結果であった。ガードマンによる不審者対応、ガードマンによる送迎車やスクールバス等を含めた児童生徒の安全な誘導と見守り、防犯カメラ設置、オートロック。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、エントランスでの手指消毒、自動検温器の設置、アルコール消毒の実施、飛沫防止ガードを使用した授業。学内でのソーシャルディスタンスを意識した指導全般。感染症不安による登校自粛者への Zoom 対応。緊急事態宣言やまん延防止法に対応した学習指導体制の確立。行事の見直しと検討・実施。部活動指導体制の検討など、できうることを検証しつつ真摯に対応する学院の指導体制への評価と受け取ることができる。

### (4) V、(12年一貫メリット)

Vにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒 68 (67)、保護者 72 (70)、教員 55 (63) という結果であった。この項目における児童生徒、保護者からは高い評価を得られているが、教員からの評価が 60 を下回る結果となっている。

この結果についての原因究明のため、職員会議にあたる教師会の時間を使ってディスカッションの時間を持った。教員を 1 グループ 5~6 名の 11 グループに細分し、それぞれのグループで意見交換を行った。その結果を以下のような項目でまとめた。

学校行事	・コロナ禍において、学校全体で行っていた学校行事が分散開催となり、小中高の教師間連携が薄れているように感じる。
日常生活	・学校行事の中では 12 年一貫を感じることはあるものの、日常生活の中で感じることは少ない。(行事例、1 年生の体力測定を 11 年生がお手伝いをする。朝のグラウンドでの異学年交流等)
学校組織	・長い目で見て児童生徒の成長を感じられるメリットを生かすため、小中高の教科での交流を増やし、話し合いの場を増やすことが望ましい。 ・初等部、中高等部の枠を超えた教員間コミュニケーションの場を増やしていく必要がある。
学習面	・カリキュラムの見直しが必要。 ・7 年生、10 年生での新入生が多く、積み上げられてきた学習内容をやり直す必要が出てしまっている。

教員の意識において、青山学院大学系属化の経過措置の中にあつて児童生徒数、学級数が増加中であること。7 年生、10 年生において多くの外部生を迎え入れている現状では、12 年一貫体制を謳うことに心苦しさを感じているようにも思える。このことを踏まえ、学院すべての学年において 3 クラス編成となる 2024 年度を視野に入れた中期的な対策が求められる結果と伺える。

この件に関しては、すでに学校運営委員会をはじめとする各種委員会において検討が進められており、初中高の教員が部を超えて教科について研究をする組織編制を検討し 12 年を見据えたカリキュラム再編等シームレスな取り組みを目指して取り組んでいる。

### (5) VI、A (授業の分かりやすさ)

VIにおける満足ポイントを平均化すると児童生徒は 66 (70)、保護者は 73 (68)、教員は 66 (72) という結果だった。また、B (教材やテキストの工夫) について、児童生徒は 70 (74)、保護者は 72 (68)、教員は 60 (60) という結果だった。

2年連続して高いポイントを獲得できていた。しかし、コロナ禍における授業の行い方、教材やテキストの工夫に置いて、児童生徒・教員が難しさを感じているように受け取ることができる。対面・オンライン・ハイブリッドな授業の行い方や課題回収などの方法を含めたICT活用の研究は欠かせない。情報教育部を中心としてICT活用研修が計画されるなど、現場で必要とされる技能を共有できるように研鑽を積んでいくことが必要であり、今後のニューノーマルな授業展開を検討していくことが急務と考える。

(6) VII、A（親身に相談に乗ってくれる）

VIIについて、満足ポイントを平均化すると児童生徒は81(78)、保護者は74(78)、教員は74(79)という結果だった。また、B（生活指導）について、児童生徒は72(73)、保護者は76(74)、教員は62(73)であった。児童生徒理解のための取り組みや生活指導全般において、高いポイントを得ることができている。Bの「基本的な生活習慣が身に付く生活指導」において、教員のポイントが最も低いポイントであった。(5)でも触れたが、コロナ禍における感染防止に対する生活指導の難しさを現場の教員が感じていると受け取ることができる。検温、消毒、換気、三密回避、食事時の黙食など、登下校を含む学校生活全般での安全確保を実現する難しさを感じながらも対策を講じてきた思いがポイントに反映されていると思われる。

(7) VIII（入学を勧めるか）

VIIIについて、満足ポイントを平均化すると児童生徒は58(64)、保護者は73(68)、教員は53(63)という結果だった。特に児童生徒と教員からの満足ポイントが平均を下回る結果となっており、この結果についての原因究明のため、(4) V、(12年一貫メリット)と同様に教員を細分し、それぞれのグループで意見交換を行った。その結果を以下のような項目でまとめた。

学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導面で以前は親身に様々な先生方が関わる体制があったが、現在は限定的な先生のみが関わっている風土があるように感じる。</li> <li>・進級・進学にとらわれ過ぎで、すぐにその話題になる。</li> </ul>
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地（駅からの距離）、スクールバス利用、私学（学費）などの要因があるのではないか</li> <li>・インドアの子どもにとっては向いているのかもしれないが、体を動かしたり部活を頑張ったりしたい子どもにとっては向いていないのではないか。</li> <li>・改善してきている部分もあるのではないか。教育機器が全くといっていいほど整っていなかったのに、この一年で劇的に変化したので、次年度以降は改善に向かう可能性があるのでは。</li> <li>・小、中学生は自然ともっと体を動かす環境に子どもを置きたい。遊具も少ない。部活の時間を削減しても学習を確保する雰囲気家庭として求めている。在籍する児童生徒の身体能力の低さに驚かされる。</li> <li>・キリスト教主義の部分は勧めたい。</li> </ul>

青山学院大学系属校化経過措置の途中であり、児童生徒とその保護者、教職員においても先を見通すことが難しい状況にある。児童生徒の「人格的な成長」と「学力的な成長」をバランスよく導くことが出来ているのかを自問自答し、また児童生徒とその保護者からの要望に耳を傾けながら変化に対応していくことが必要と考える。しかしながら、スモールステップではあるものの、着実に変化を繰り返している状況にあり、学院の変化とともにこの項目に対する評価も変化してくるものと期待できる。

## 5、改善への対策

今後、PDCA サイクルに則り詳細な改善対策を検討、公表、実施していく予定である。ここでは概要にとどめる。

### 1、12年一貫メリットへの対応

2020年度は、コロナ禍の緊急事態宣言による学校閉鎖、学校行事の中止、延期、再編等今まで学院が培ってきた12年の成長を見据えた活動が思うようにできなかった。

コロナ禍の終息の見通しが立たない中、2021年度も同様な状況になると推測できる。考え得る万全な安全対策を検討・実施した上で、過去実施してきた形を理想とし、可能な限り児童生徒が参加できるように。また、その様子を保護者に理解していただく場を提供するように計画・実施していく。

### 2、授業の質的向上

初等部、中高等部の時間割を調整し、毎週各部の教員が集まる教科部会を開催している。教科部会での情報共有が教科指導上の良い効果をもたらすと期待できる。また、初等部教員が加わることにより、中・長期的な課題として認識することができる。

定期的な研究授業を行い、各教科担当者がより質の高い授業運営を行う意識の向上に努めていく。

### 3、児童生徒、保護者とのかかわり方の技能向上

アンケートで示された不満を解消し、自分たちで気づかない不備な点を改め、生徒・保護者と良い関係を築いていく必要がある。発達段階に応じて、児童生徒の自主性を重んじた丁寧な対応を心がけることが最重要であり、児童生徒が教員に受け止められているという自覚が得られる指導を行う。

アンケートの回答に対して、教員間でのディスカッションを行い、児童生徒への対応についての情報交換や意見交換の場を設けていく。